

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ホテルサービスⅣ	(NGH24T)
講義名 (コード)	ホテルサービスⅣB	(NGH24TB)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 1
授業担当者	高木 裕衣	時間数 30
成績評価教員	高木 裕衣	講義期間 秋学期
実務者教員	はい	履修区分 必修
実務者教員特記欄	勤務歴：(株)プリンスホテル	授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	様々なホテル業務と業界用語を理解し、ケースに応じ自分の言葉でサービスができる。
全体の内容と概要	1年次に学習した業務を発展させ、ケースごとの対応を自分で考え、敬語でサービスを実践する 2年間の学修で特定技能1号宿泊業の資格取得が可能な知識と技能を得る
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	指示があるとき以外は携帯使用禁止

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	ホテル業務を実践応用できる	予約業務の復習 発展：予約変更・キャンセルの問い合わせに敬語で対応する
2	ホテル業務を実践応用できる	ドア・ベル業務の復習 発展：アーリーチェックイン客に対し、ケースに応じて敬語で対応する
3	ホテル業務を実践応用できる	フロント業務の復習 発展：外客・団体チェックイン等、ケースに応じて敬語で対応する
4	ホテル業務を実践応用できる	フロント業務の復習 発展：外客・団体チェックイン等、ケースに応じて敬語で対応する
5	ホテル業務を実践応用できる	フロント業務実技テスト
6	ホテル業務を実践応用できる	フロント業務実技テスト
7	ホテル業務を実践応用できる	館内電話対応業務 チェックイン後の問い合わせについて、ケースに応じて敬語で対応する
8	ホテル業務を実践応用できる	フロント会計業務の復習 発展：外貨両替・キャッシュアドバンス等ケースに応じて敬語で対応する
9	ホテル業務を実践応用できる	コンシェルジュ業務の復習 発展：道案内・観光地の説明を、ケースに応じて敬語で対応する
10	ホテル業務を実践応用できる	ドア・ベル業務の復習 発展：タクシー配車・荷物発送を、ケースに応じて対応する
11	ホテル業務を実践応用できる	他部署・同僚への引継ぎ業務・チームビルディング お客様からの問い合わせや引継ぎ事項にはどんなものがあるか意見を出す
12	ホテル業務を実践応用できる	他部署・同僚への引継ぎ業務・チームビルディング お客様からの問い合わせや引継ぎ事項を正確に伝える実践演習
13	まとめ	ホテル業務総まとめ
14	まとめ	後期期末テスト
15	まとめ	テストフィードバック・まとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	旅館ホテル・観光の教科書
参考文献・資料等	特定技能1号宿泊テキスト
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	接客マナー II		(NGH24V)
講義名 (コード)	接客マナー II A		(NGH24VA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	中村 真衣	時間数	30
成績評価教員	中村 真衣	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	実践に近いロールプレイングの接客練習を行い、即戦力になる人材を育てる
全体の内容と概要	今までに学んできた接客の知識を活かし、お客様に感動を伝える接客を行えることができる
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	身だしなみを常に整える・携帯電話使用禁止・ビデオ撮影を行うこともある

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	よい人間関係を生むために必要な話し方を理解し、わかりやすく伝えることができる	接客マナーの基本 (第6章) 感じのよい話し方と聴き方 普段の口癖やカジュアルな言葉遣いを体感させ、感じがいい話し方とはどう いうものか考えてみる

2	お客様からの話しを正確に理解し行動することができるようになる	接客マナーの基本 (第6章) 感じのよい話し方と聴き方 オープンクエスチョンとクローズドクエスチョンを使い分け、情報を聞き出し要望に応えることができるかロープレを行う
3	お客様をよく観察し、すぐに行動に移す対応ができるようになる	接客サービスの基本 (第7章) 接客対応の基本 接客サービスの流れを理解させ、お客様それぞれに合ったサービスが提供できるように理解を深めさせる
4	臨機応変な対応ができるようにケーススタディから場面を想定し、考える	場面を想定し、スムーズにお客様へ対応ができるよう練習を行う
5	状況に応じたセールストークができるようになる	接客サービスの基本 (第8章) セールストークの基本 相談したくなるような声かけとアプローチ法を学習する
6	場面を想定したセールストークができるようになる(クローズまでもっていく)	場面を想定しお客様へ商品のご提案・納得・購入をしてもらえるように練習を行う
7	基本的な電話対応ができる	接客サービスの基本 (第9章) 電話対応 基本的な電話対応を理解し、気持ちの良い対応ができるように何度も練習を行う
8	正確に伝言を伝えることができる	接客サービスの基本 (第9章) 電話対応 正確にメモをとり、相手に伝えることができるようにメモ・復唱の練習を繰り返す
9	一人で電話をかけ、相手に伝言を伝えることができる	接客サービスの基本 (第9章) 電話対応 一人で電話をし、適切な敬語を使用し、相手に伝言を残すことができるようになる。ペアワークも行う
10	ユニバーサルサービスを理解し、分け隔てないサービスを行うことができるようになる	接客サービスの基本 (第10章) ユニバーサルサービスの基本 ユニバーサルサービスやデザインの意味を学び、「誰もが気持ちよく生活できる社会」とは何かを理解させる
11	身体的特徴を持つ人たちにできるサポートとは何かを理解し、実践できるようになる	接客サービスの基本 (第10章) ユニバーサルサービスの基本 高齢者や障がいをお持ちの方の特徴を理解し、サポートできるように動画も
12	ユニバーサルサービスを理解し実践できる	実際に目を覆ったり、足に重りを付けたりし、疑似体験を用い気持ちを理解しながら実践を行う
13	クレームの対応ができるようになる	接客サービスの基本 (第11章) クレームへの対応の基本 対面だけでなく、電話でのクレームの対応もできるようにする
14	後期まとめ	テスト
15	後期まとめ	フィードバックと接客のまとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	【改訂版】接客サービス基本テキスト
参考文献・資料等	適宜プリント配布
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	旅行業務IV	(NGH25B)	
講義名 (コード)	旅行業務IVA	(NGH25BA)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	小林 心花	時間数	30
成績評価教員	小林 心花	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	(株)JTB中部	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	JRの料金や航空券の予約・取り消しの規定を理解し、 お客様に正しい案内ができるようになる
全体の内容と概要	お客様にどのように案内するかを意識しながら 旅行業務取扱管理者の内容から実務でよく使う内容を学ぶ。
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	理解度を測るため毎授業で小テストあり

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期の授業内容を思い出し後期の授業に活かすことができる	前期の内容を復習して理解が足りないところを確認する
2	【海外】観光資源と空港3レターコード覚える	【海外】観光資源と空港3レター、有名なホテルなど学ぶ
3	【海外】観光資源と空港4レターコード覚える	【海外】観光資源と空港4レター、有名なホテルなど学ぶ
4	【海外】観光資源と空港5レターコード覚える	【海外】観光資源と空港5レター、有名なホテルやなど学ぶ
5	時差と飛行所要時間が計算できるようになる	世界標準時間や日付変更線を理解して時差を計算する
6	ホテル・クルーズに関する用語を理解する	ホテル・クルーズの写真や動画で用語を学ぶ。
7	海外旅行保険の重要性を理解しお客様にご提案できるようになる	実際にあったトラブルから海外旅行保険の重要性を学ぶ
8	パンフレットから必要な情報を読み取る	実際にパンフレットを見ながら必要な情報を読み取る。 どのようにお客様に案内するか学ぶ
9	パンフレットから必要な情報を読み取る	ロールプレイを通してお客様への提案方法を学ぶ
10	オリジナルパンフレット制作ができる	国内でも海外でもオリジナルツアーを企画する
11	オリジナルパンフレット制作ができる	企画したツアーをパンフレットにする
12	オリジナルパンフレット制作ができる	企画したツアーをパンフレットにする
13	オリジナルパンフレットを提案できる	ロールプレイ形式でオリジナルツアーを提案する
14	期末テスト	授業のまとめテスト
15	フィードバック	後期内容 振り返り

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	観光マーケティング実践Ⅱ	(NGH25D)
講義名 (コード)	観光マーケティング実践ⅡA	(NGH25DA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 1
授業担当者	横内 和加	時間数 30
成績評価教員	横内 和加	講義期間 秋学期
実務者教員	はい	履修区分 必修
実務者教員特記欄	個人事業 AERU PLUS 代表	授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	観光客の消費行動を理解し、地域の魅力を戦略的に発信する実践力を養う。ターゲット設定、写真選定・編集技術、そして来店や訪問へ繋げる誌面構成を習得し、冊子を通じて地域資源をプロモーションできる基礎力を身につける。
全体の内容と概要	実在する観光資源を題材に、ターゲットの「行きたい」という衝動を形にする観光冊子の制作演習。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	観光メディアの役割を知る	既存の冊子を分析。消費行動（行きたい・買いたい）を促す仕掛けを学ぶ。
2	【企画】 テーマとターゲット設定	応援したい地域やお店をリサーチ。ターゲット（誰に）を明確にする。
3	冊子のストーリーを構築する	誌面の構成を練る。表紙から裏表紙までのストーリー構築。
4	取材の準備をする①	取材のアポ取り、質問事項の整理、撮影ラフ（撮るべきカット）の作成。
5	取材の準備をする②	〃
6	取材・撮影	実際に店舗等へ。現場の空気感を採集し写真撮影やインタビューをする。
7	素材の整理とストーリー構築	取材で得た情報と写真を整理。読者の心を動かす構成を固める。
8	【表紙】 第1印象のデザイン	冊子の顔となる「表紙」の制作。キャッチコピーとメイン写真の選定。
9	【記事制作】 レイアウト(1)	特集ページの構築。写真の魅力を最大化させるダイナミックな配置。
10	【記事制作】 レイアウト(2)	詳細情報の整理。地図やメニュー等、来店へ繋げるための導線を組み込む。
11	中間チェックと相互講評	【中間レビュー】 制作途中の誌面を共有し、現場の魅力が伝わるか再点検。
12	デザインのブラッシュアップ	色彩、フォント、余白の微調整。一冊としてのトーン&マナーを整える。
13	入稿データの作成・入稿	Canvaでの印刷の注意点を学び、印刷会社への入稿を体験
14	成果を発表し共有する	完成した冊子の披露。成果や反省等をプレゼンテーション。
15	フィードバック	制作物へのフィードバック。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	検定試験対策Ⅱ	(NGH25F)
講義名 (コード)	検定試験対策ⅡB	(NGH25F)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	柄澤 郁子	時間数 30
成績評価教員	柄澤 郁子	講義期間 秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	習得したWordの作成力を踏まえ、社外向け文書を正確かつ適切な形式で作成できる実務力の習得を目的とする
全体の内容と概要	社外とのやり取りで求められる文書の構成・表現・体裁を理解し読み手に配慮した文書作成スキルを身につける
授業時間外の学修	ビジネス文書のフォーマットを覚えて、構成・必須項目・書式を理解し、状況に応じて正しく作成できるようになりましょう。
履修上の注意事項等	希望者は日商PC検定の受験が可能です。希望者には対策指導を行います。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期学習したビジネス文書の基礎知識を復習	同じ内容の旅行案内を社内文書、社外文書それぞれで作成する
2	文書校正を理解し誤りを自分で見つけ修正できるようになる	Wordの文書校正機能を利用して文書校正を理解する
3	表を活用して情報を整理し読みやすく正確な文書を作成できる	表を活用した送付案内作成
4	図形の操作を習得し、わかりやすい文書作成に活用する	図形を活用した案内図作成
5	読みやすい文書構成ができる力をつける	箇条書き・インデント・タブを利用した文書作成①
6	読みやすい文書構成ができる力をつける	箇条書き・インデント・タブを利用した文書作成②
7	構成要素の配置と編集を習得し目的に合った文書を作成できる	構成要素を並べかえて文書作成
8	要点を整理し文書化できる	メモ書きから文書作成
9	データを視覚化した文書を作成できる	グラフを挿入・編集した文書作成
10	主要機能を総合的に活用し社内外の実務で活用できる読みやすい文書を作成できる	これまでの機能を使った練習問題をメモ書きより作成
11		・あいさつ文
12		・表
13		・図形 ・箇条書き ・インデント、タブ ・グラフ
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	60時間でエキスパートWord&Excel (貸出)
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	検定試験対策Ⅱ	(NGH25F)	
講義名 (コード)	検定試験対策ⅡA	(NGH25FA)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	小澤 ゆみ	時間数	30
成績評価教員	小澤 ゆみ	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	サービス接客検定受験に必要な知識を学び、実践できるようになる
全体の内容と概要	日本における接客サービスを深く理解するとともに、日本の暦や食文化、言語文化を学び、接客に生かせるように実践的に練習する。
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	サービスの一般知識を理解できる	日本の旬の食材・食材の産地を学び サービスに生かすことができるようにする
2	サービスの一般知識を理解できる	日本の調味料を学び サービスに生かすことができるようにする
3	サービスの一般知識を理解できる	日本の酒を学び サービスに生かすことができるようにする
4	サービスの一般知識を理解できる	日本のお茶・和菓子を学び サービスに生かすことができるようにする
5	サービスの一般知識を実践できる	和室実習練習
6	サービスの一般知識を実践できる	和室実習
7	サービスの一般知識を理解できる	食材と栄養について学び サービスに生かすことができるようにする
8	サービスの一般知識を理解できる	日本の郷土料理を学び サービスに生かすことができるようにする
9	サービスの一般知識を理解できる	興味のある日本の郷土料理を調べ、発表する
10	サービスの一般知識を理解できる	興味のある日本の郷土料理を調べ、発表する
11	まとめ	日本のサービス接遇について学んだことを振り返る
12	まとめ	興味のある業界・会社に求められるサービスを考察し、まとめる
13	まとめ	興味のある業界・会社に求められるサービスを考察し、まとめる
14	まとめ	発表（後期期末テスト）
15	まとめ	まとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	サービス接遇検定試験合格テキスト&問題集、旅館ホテル・観光の教科書
参考文献・資料等	特定技能1号外食テキスト
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	国際理解Ⅱ		(NGH25H)
講義名 (コード)	国際理解ⅡA		(NGH25HA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	高橋 亨	時間数	30
成績評価教員	高橋 亨	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際的な理解度を高め、異文化に対する知識を習得し、様々な国の人達との円滑かつ効果的なコミュニケーションを行うことができるようになる
全体の内容と概要	世界の国々の歴史や現状をテキストに基づき学ぶとともに、世界的な課題提起「SDGs」の進捗状況などを、グループワーク等を活用して学ぶ
授業時間外の学修	様々な国の方との交流を通じ相互理解を深める
履修上の注意事項等	各授業の最後に確認テストを実施する予定

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション 学習意図が理解できる SDGsの現状を理解できる	・本授業の意図と習得する知識・現段階における知識レベルの把握 ・SDGsの定義と取り組み背景などを学ぶ ・SDGs17項目の世界的達成率と主要国の現状
2	SDGsの現状を理解できる	・SDGs17項目の世界的達成率と主要国の現状 【セルフワーク】出身国の達成状況について調べてみる
3	SDGsの本質を理解できる① (日本の達成率と世界の事例)	・SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「貧困をなくす」「飢餓をゼロに」
4	SDGsの本質を理解できる② (日本の達成率と世界の事例)	・SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」
5	SDGsの本質を理解できる③ (日本の達成率と世界の事例)	・SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「ジェンダー平等を実現しよう」「安全な水とトイレを世界中に」
6	SDGsの本質を理解できる④ (日本の達成率と世界の事例)	・SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「働きがいも経済成長も」
7	SDGsの本質を理解できる⑤ (日本の達成率と世界の事例)	・SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「産業と技術革新の基盤を作ろう」「人や国の不平等をなくそう」
8	前期中間テスト	後期授業で学んだ内容の確認テスト（筆記）
9	SDGsの本質を理解できる⑥ (日本の達成率と世界の事例)	・SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「住み続けられるまちづくりを」「つくる責任使う責任」
10	SDGsの本質を理解できる⑦ (日本の達成率と世界の事例)	・SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「気候変動に具体的な対策を」
11	SDGsの本質を理解できる⑧ (日本の達成率と世界の事例)	・SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「海の豊かさを守ろう」「陸の豊かさも学ぼう」
12	SDGsの本質を理解できる⑨ (日本の達成率と世界の事例)	・SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「平和と公平をすべての人に」「パートナーシップで目標を達成しよう」
13	身近な解決策を検討し 発表することができる①	・SDGs17項目の中から興味を持った項目をピックアップする ・その項目について身近な解決策を見つけてレポートする
14	後期末テスト	後期授業で学んだ内容の確認テスト（筆記）
15	フィードバック・まとめ	テスト結果のフィードバックと回答解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「地図でよくわかる世界の国大百科」「こどもSDGs達成レポート」
参考文献・資料等	なし
備考	理解を深めるための独自資料を、内容に応じ用意

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	国際観光学Ⅱ	(NGH25J)
講義名 (コード)	国際観光学ⅡB	(NGH25JB)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	小林心花	時間数 30
成績評価教員	小林心花	講義期間 秋学期
実務者教員	はい	履修区分 必修
実務者教員特記欄	(株)JTB中部	授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際観光の基本的な知識を学び、日本や世界の観光の特徴を理解し、視野を広げられるようになる。観光業で働くための基礎的な考え方を身につける。
全体の内容と概要	世界の観光資源や活用方法、特徴文化などを学習する。 自国や日本の観光資源の活用について課題や解決策を見つける。
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	授業で理解度確認テストあり

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期の復習ができる	前期の内容を振り返る
2	写真を見て世界遺産をこたえることができる	写真や動画で[世界遺産]について学ぶ
3	写真を見て世界遺産をこたえることができる	写真や動画で[世界遺産]について学ぶ
4	用語の説明が正確にできるようになる	世界の用語(APEC,GDP,TPP)などを学ぶ
5	世界の観光資源について学ぶ①	南アメリカ・アフリカの観光資源・文化を学ぶ
6	世界の観光資源について学ぶ②	オセアニアの観光資源・文化を学ぶ
7	世界の観光資源について学ぶ③	南アフリカ・アフリカ・オセアニアに関するツアーを調べてまとめる。
8	時差計算できるようになる	世界各国の時差について学び、計算できるようになる
9	観光資源・国の特徴をまとめることができる	自国・日本以外の国の観光資源・国の特徴を情報収集をする
10	観光資源・国の特徴をまとめることができる	情報をまとめ、新たな観光資源を提案する
11	まとめた内容を発表する①	まとめた内容を発表する。他学生の発表を聞き感想文を作成する
12	まとめた内容を発表する②	まとめた内容を発表する。他学生の発表を聞き感想文を作成する
13	期末テストの対策ができる	後期内容を復習しながら期末テストの準備をする
14	期末テスト	期末テスト
15	フィードバック	前期内容を振り返る

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	るるぶ地図でよくわかる世界の国大百科
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	スピーチ&プレゼンテーションⅡ	(NGH25L)	
講義名 (コード)	スピーチ&プレゼンテーションⅡA	(NGH25LA)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	小林 心花	時間数	30
成績評価教員	小林 心花	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	原稿用紙を正しく使い原稿をかくことができ、自分の意見を正しい日本語でスムーズに話せるようになる。相手の意見を聞きディベートができるようになる。
全体の内容と概要	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見をまずは原稿にし、スピーチで表現する 原稿用紙を正しくつかい長文を書く
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期内容を振り返りができる	前期で学んだスピーチのポイントを整理する。昨年の卒業発表をみて良いところを学ぶ
2	効果的はプレゼン資料がわかる	見やすいスライドとわかりづらいスライドを比較して「見やすいスライド」がどのようなものか学ぶ
3	情報を要約することができる	必要な情報を選択する練習と内容からタイトルをつける
4	効果的はプレゼン資料が作成できる	簡単なテーマで見やすいスライドを作れる
5	グラフを効果的につくることのできる	目的別に円グラフ、棒グラフなどの使い分けを学ぶ
6	余白を生かしたスライドが作れる	余白・フォントの大きさ・情報量を意識してスライドを作ってみる
7	スライドとスピーチで商品紹介できる	効果的なスライドと構成で商品紹介を作成する
8	スライドとスピーチで商品紹介できる	効果的なスライドと構成で商品紹介を作成する
9	スライドとスピーチで商品紹介できる	効果的なスライドと構成で商品紹介を作成する
10	スライドとスピーチで商品紹介できる	効果的なスライドと構成で商品紹介を作成する
11	商品紹介を発表することができる	他学生の発表を聞いて感想や課題を提案できる
12	商品紹介を発表することができる	他学生の発表を聞いて感想や課題を提案できる
13	期末テスト	期末テストに向けて準備する
14	期末テスト	効果的なプレゼン資料とスムーズなスピーチで発表する
15	期末テスト	効果的なプレゼン資料とスムーズなスピーチで発表する

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネス日本語Ⅳ	(NGH25N)	
講義名 (コード)	ビジネス日本語ⅣA	(NGH25NA)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	塚川 剛	時間数	30
成績評価教員	塚川 剛	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ビジネス日本語の中級レベルを理解する。7月にJLPTでN3不合格者は、12月にN3を再挑戦する。 年内に就職内定をもらう。
全体の内容と概要	前期は、テキスト前半（第7課～12課）まで学習する。
授業時間外の学修	ほうれんそうを実践する習慣をつくる。約束や時間を守ることを徹底する。
履修上の注意事項等	目上の人に対する日本語表現が自然にできるようになること。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	夏休み中のアルバイトでの体験談を紹介できる。	夏休み中のアルバイトで中級レベルのビジネス日本語で役立ったことを紹介できる。発表して情報共有できる。
2	第7課（前半）を理解する	1年時の既習事項を思い出し、中級レベルの誘いができる。
3	第7課（後半）を理解する	前週の既習事項を思い出し、中級レベルの誘いが完全にできる。
4	第8課（前半）を理解する	1年時の既習事項を思い出し、中級レベルの指示ができる。
5	第8課（後半）を理解する	前週の既習事項を思い出し、中級レベルの指示が完全にできる。
6	第9課（前半）を理解する	1年時の既習事項を思い出し、中級レベルの報告ができる。
7	第9課（後半）を理解する	前週の既習事項を思い出し、中級レベルの報告が完全にできる。
8	第10課（前半）を理解する	1年時の既習事項を思い出し、中級レベルの申し出ができる。
9	第10課（後半）を理解する	前週の既習事項を思い出し、中級レベルの申し出が完全にできる。
10	第11課（前半）を理解する	1年時の既習事項を思い出し、中級レベルの許可ができる。
11	第11課（後半）を理解する	前週の既習事項を思い出し、中級レベルの許可が完全にできる。
12	第12課（前半）を理解する	1年時の既習事項を思い出し、中級レベルの意見交換ができる。
13	第12課（後半）を理解する	前週の既習事項を思い出し、中級レベルの挨拶が意見交換にできる。
14	7-12課の復習をする。	後期で学んだ内容の練習問題で合格点が取れる。
15	後期試験を概略できる。	理解不足、間違えた個所が理解できる。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	外国人のためのケーススタディで学ぶビジネス日本語
参考文献・資料等	政府の最新の外国人政策に関するニュースや情報提供、関係するYou Tube視聴
備考	前期でできるだけ就職内定がもらえる工夫を伝授する

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	Webマーケティング実践ⅣⅡ	(NGM22D)
講義名 (コード)	Webマーケティング実践Ⅱ	(NGM22DX)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 1
授業担当者	横内 和加	時間数 30
成績評価教員	横内 和加	講義期間 秋学期
実務者教員	はい	履修区分 必修
実務者教員特記欄	個人事業 AERU PLUS 代表	授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	Webサイトの構造とユーザー心理を理解し、目的を達成するためのHPおよびLPを構築するスキルを習得する。自身の好きな題材を元にライティングとデザインの両面を考え、成果につなぐWebマーケティングの基礎を体得する。
全体の内容と概要	認知から成約までを繋ぐ「Web上の導線設計」を体系的に学び、ビジネス現場で即戦力となる一貫通貫の設計・制作スキルを習得します。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	HPとLPの違いを理解する	HPとLPの違いを理解する。優れたLPのリサーチを行う。
2	【LP】 題材選びと構成案	商品・サービスを選択し、その魅力を書き出し構成を練る。
3	セールスコピーを実装する	ターゲットを想定し、実際に「刺さる言葉」をページに配置していく。
4	ファーストビューをデザインする	最初の1秒で心を掴むビジュアルとキャッチコピーを構築する。
5	LP全体のデザインを組み上げる	構成に基づき、Canva等で1ページのLPを実際に制作する。
6	”	”
7	スマホ表示の最適化を行う	実機での見え方を確認し、ボタンの押しやすさや読みやすさを調整する。
8	【HP編】 サイト全体の構造設計	拠点となるHPの役割を考え、複数ページの繋がり（構成）を作る。
9	メインビジュアルを制作する	ブランドの世界観を表現し、信頼感を与えるトップページを構築する。
10	”	”
11	各下層ページを実装する	サービス詳細やプロフィールなど、必要な情報をページとして形にする。
12	導線設計とリンクの接続	各ページを繋ぎ、ユーザーを迷わせないサイト全体の流れを作る。
13	公開前の最終点検を行う	リンク、誤字脱字、表示崩れなど、プロの視点で細部を仕上げる。
14	発表準備	制作したHPの目的や背景、意図などのプレゼン準備をする
15	発表	各自発表

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネス英語Ⅳ	(NKT24V)
講義名 (コード)	ビジネス英語ⅣA	(NKT24VA)
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	英語キャリアコース / Webマーケティングコース / 観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	高野 恵	時間数 30
成績評価教員	高野 恵	講義期間 秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	実務場面において、注文対応、予約対応、提案や案内などを英語で行えるようになることを目標とする。
全体の内容と概要	レストランやホテル、観光案内などを想定した業務シーンを通して、注文対応、予約対応、問題対応、提案表現など、実務に直結する英語表現を学習する。
授業時間外の学修	授業内容を振り返り、業務場面を想定した発話練習やリスニングを行うこと。
履修上の注意事項等	春学期の学習内容を基礎として進行するため、復習を行ったうえで授業に取り組むこと。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	飲食店で注文の確認や応対ができるようになる	Unit4 Are You Ready to Order?
2	数量や提供状況について正確に確認できるようになる	Unit5 Do We Have Enough Wine?
3	顧客の要望に応じて商品や料理を提案できるようになる	Unit6 I'll Try the Sashimi
4	飲食店での一連の接客対応ができるようになる	Review Units 4-6
5	宿泊施設での予約対応ができるようになる	Unit7 I'd Like to Book a Room
6	商品やお土産について説明・案内ができるようになる	Unit8 I'm Looking for a Souvenir
7	顧客の困りごとを聞き取り、状況を把握できるようになる	Unit9 What Seems to Be the Problem?
8	サービス業務に応じた適切な対応ができるようになる	Review Units 7-9
9	依頼内容を理解し、必要な対応を説明できるようになる	Unit10 Can You Tell Me What to Do?
10	提案や助言を業務英語として丁寧に伝えられるようになる	Unit11 I Suggest Going to Shibuya
11	観光地・施設について分かりやすく説明できるようになる	Unit12 Where Do You Recommend I Go?
12	案内・提案を含む対応を円滑に行えるようになる	Review Units 10-12
13	実務場面を想定した総合的な応対ができるようになる	総復習
14	秋学期の内容を実務英語として運用できるようになる	期末テスト
15	学習成果を振り返り実務に向けた課題を整理できるようになる	テストフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Speaking of Hospitality
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネス翻訳Ⅱ		(NKT25B)
講義名 (コード)	ビジネス翻訳ⅡA		(NKT25BA)
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース/観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	松尾 早苗	時間数	30
成績評価教員	松尾 早苗	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	簡単な商談が英文メールでできるようになる (問い合わせ、クレーム処理、アポイント、案内、通知)
全体の内容と概要	春学期に英文メールの和訳、秋学期に日本語を英文メールにする演習を行う
授業時間外の学修	授業で学んだビジネス特有の表現、単語を復習
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

--	--	--

回	到達目標	授業内容
1	前期の内容がきちんと身についている	前期内容復習
2	アポイントメント依頼メールを英文で作成できる	特殊表現を学んだ後、実際に英文メールを作成
3	アポイントメント依頼メールを英文で作成できる	特殊表現を学んだ後、実際に英文メールを作成
4	出張手配依頼メールを英文で作成できる	特殊表現を学んだ後、実際に英文メールを作成
5	クレームメールに英文で対応できる	特殊表現を学んだ後、実際に英文メールを作成
6	社内連絡メールを英文で作成できる	特殊表現を学んだ後、実際に英文メールを作成
7	社外連絡メールを英文で作成できる	特殊表現を学んだ後、実際に英文メールを作成
8	社交辞令メールを英文で作成できる	特殊表現を学んだ後、実際に英文メールを作成
9	社交辞令メールを英文で作成できる	特殊表現を学んだ後、実際に英文メールを作成
10	営業メールを英文で作成できる	特殊表現を学んだ後、実際に英文メールを作成
11	ハウレンソウを英文で作成できる	特殊表現を学んだ後、実際に英文メールを作成
12	総復習	プリント
13	テストの準備	プリント
14	後期テスト	テスト
15	テスト解説	解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	英文ビジネスEメール実例・表現1200
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	TOEIC対策Ⅳ		(NKT25D)
講義名 (コード)	TOEIC対策ⅡA		(NKT16JA)
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / Webマーケティングコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	TOEIC500点を旨す。
全体の内容と概要	TOEICテストの概要を知り、基礎を復習しながら確実に問題を解けるようにする。
授業時間外の学修	新しい語彙・フレーズの復習をし、会話文などの音読練習をする。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	リーディングパートの模試問題を解く	リーディングパートの模試問題を解く。
2	Part5の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part5の復習。
3	Part6の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part6の復習。
4	Part7の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part7の復習。
5	Part7の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part7の復習。
6	リスニングパートの模試問題を解く	模試問題Part1の復習。
7	Part1の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part2の復習。
8	Part2の解答と解説が理解できるようになる	過去問題を通して自分の達成度を判断し、これからの勉強法を考える。
9	Part3の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part3の復習。
10	Part3+4の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part3+4の復習。
11	Part4の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part4の復習。
12	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
13	総復習②	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC® L&R TEST Book 2: Intermediate
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネスコンピューティングⅣ	(NKT25F)
講義名 (コード)	ビジネスコンピューティングⅣF	(NKT25FF)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	宮原 祥子	時間数 30
成績評価教員	宮原 祥子	講義期間 秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	これまで習得した内容に加えて、より実務に近いデータ処理・分析を学び 職場で求められる正確かつ効率的な資料作成スキルを習得する
全体の内容と概要	実務で使うテンプレートで、習得した総合演習を行い職場で活かせる運用力を身につける
授業時間外の学修	仕事で使える内容を授業の課題にしています。卒業後、仕事に活かせるように 復習して理解してください。
履修上の注意事項等	希望者は日商PC検定の受験が可能です。希望者には対策指導を行います。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	VLOOKUP関数で必要なデータを取り出し正しく反映できる	VLOOKUP関数① VLOOKUP関数の構造と使用方法
2	違いを理解し表の形式に合わせて使い分けられるようにする	VLOOKUP関数② VLOOKUP関数とHLOOKUP関数のちがい
3	練習問題を実務テンプレートで行い処理能力をつける	VLOOKUP関数を活用した練習問題
4	テーブル機能を用いてデータを正確に作成・更新することができる	テーブル機能（テーブル作成・検索・集計）
5	金額を正しく計算できる 見積書を作成することができる	見積書の作成（金額の計算・値引きの計算・消費税の計算）
6	シートコピーと書式・計算式の引き継ぎができる	納品書・請求書の作成（シートのコピー・書式の編集）
7	小計・VLOOKUP関数を利用してデータを効率的に整理・分析できる	売上リスト作成（リスト集計・VLOOKUP関数・金額の計算）
8	データをまとめ視覚的にわかりやすい報告資料を作成できる	ピボットテーブルとピボットグラフ
9	複数のシートを整理して集計・管理ができる	3-D参照を使った複数シートの計算
10		
11	実務テンプレートを使った総合課題でデータ処理を行う	練習問題 実務で使う書式で、文書作成やデータ入力→集計→分析まで
12	力をつけることができる	処理する課題を行う
13		
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	30時間でマスターWord&Excel、60時間でエキスパートWord&Excel（貸出）
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	キャリアデザインⅣ	(NKT25H)
講義名 (コード)	キャリアデザインⅣA	(NKT25HA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	石田 浩也	時間数 30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間 秋学期
実務者教員	はい	履修区分 必修
実務者教員特記欄	キャリアコンサルタント、 合同会社ライトハウス・キーパーズ代表	授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。社会人として必要とされるマナーを習得する。⇒企業で活躍できる人間形成
全体の内容と概要	講義と演習により、就職内定へ向けて実践的なマナーやスキル、企業研究、職種研究、インターンシップの活用を通じてマッチング方法を習得する。
授業時間外の学修	インターンシップ、合同企業説明会&面接会参加 (WEB含む)
履修上の注意事項等	主体性をもって、授業に取り組む姿勢、就職に意欲的に取り組む姿勢。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	出席率70%以上の者を期末試験の受験対象者とし、授業への参加態度や学習意欲も評価の対象とする		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業内容の理解	【オリエンテーション】 後期の内容について説明、心構え 【演習】 進路希望、希望職種、ガイダンス予約
2	インターンシップの振り返りができる	【インターンシップ】 インターンシップについての復習 【演習】 インターンシップの反省キャリア面談、応募先企業シート作成
3	就職活動スケジュールが理解できる	【就職情報説明】 就職活動スケジュール、必要書類、スキル、準備物 【演習】 キャリア面談 応募先企業シート作成
4	就職活動の計画が作成できる (1)	【行動計画立案】 応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】 キャリア面談 就職活動行動計画表作成
5	就職活動の計画が作成できる (2)	【行動計画立案】 応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】 キャリア面談 就職活動行動計画表作成
6	就職活動の計画が作成できる (3)	【行動計画立案】 応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】 キャリア面談 就職活動行動計画表作成
7	就職内定先企業への提出書類について理解できる(1)	【内定書類】 就職内定後の提出書類、提出方法、準備物など 【演習】 内定書類記入 誓約書、内定受諾書、個人情報書類の署名捺印
8	就職内定先企業への提出書類について理解できる(2)	【内定書類】 就職内定後の提出書類、提出方法、準備物など 【演習】 内定書類記入 誓約書、内定受諾書、個人情報書類の署名捺印
9	入社前研修、オリエンテーションについて理解できる。(1)	【入社前研修】 研修の目的、研修内容、研修への関わり方 【演習】 仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
10	入社前研修、オリエンテーションについて理解できる。(2)	【入社前研修】 入社時書類、労働条件(給料、時間、休日、勤務地) 【演習】 仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
11	入社前研修、オリエンテーションについて理解できる。(3)	【入社前研修】 社会人のマナー、コンプライアンス 【演習】 仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
12	日本企業の仕事について理解できる。(1)	【日本の企業】 1日、1か月、1年間の仕事の流れ 【演習】 仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
13	日本企業の仕事について理解できる。(2)	【日本の企業】 職場でのコミュニケーション 【演習】 仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
14	まとめと対策	【テスト】 記述式 【テスト】 回収
15	まとめと対策	【テスト返却】 フィードバックと解説 【振り返り】 講義の振り返り、まとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『就職内定基本テキスト』(日本能率協会マネジメントセンター)
参考文献・資料等	適宜プリント、就活に関するニュースなどの情報シェアを行う
備考	担当教員はキャリアコンサルタントとしての実務経験を活かし、就職内定へ向けての実践的なカリキュラム運営を行う

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	キャリアデザインⅣ	(NKT25H)
講義名 (コード)	キャリアデザインⅣF	(NKT25HF)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	若林 繁実	時間数 30
成績評価教員	若林 繁実	講義期間 秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。社会人として必要とされるマナーを習得する。⇒企業で活躍できる人間形成
全体の内容と概要	講義と演習により、就職内定へ向けて実践的なマナーやスキル、企業研究、職種研究、インターンシップの活用を通じてマッチング方法を習得する。
授業時間外の学修	インターンシップ、合同企業説明会&面接会参加 (WEB含む)
履修上の注意事項等	主体性をもって、授業に取り組む姿勢、就職に意欲的に取り組む姿勢。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業内容の理解	【オリエンテーション】講師紹介後期の内容について説明、心構え 【演習】進路調査 Cam-J 進路希望、希望職種、ガイダンス予約
2	インターンシップの振り返りができる	【インターンシップ】インターンシップについての復習 【演習】インターンシップの反省キャリア面談、応募先企業シート作成
3	就職活動スケジュールが理解できる	【就職情報説明】就職活動スケジュール、必要書類、スキル、準備物 【演習】キャリア面談 応募先企業シート作成
4	就職活動の計画が作成できる (1)	【行動計画立案】応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】キャリア面談 就職活動行動計画表作成
5	就職活動の計画が作成できる (2)	【行動計画立案】応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】キャリア面談 就職活動行動計画表作成
6	就職活動の計画が作成できる (3)	【行動計画立案】応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】キャリア面談 就職活動行動計画表作成
7	在留資格制度、申請について理解できる (1)	【在留資格】就職在留資格制度、特定活動について説明、必要書類説明 【演習】在留資格変更申請書記入、準備物確認
8	在留資格制度、申請について理解できる (2)	【在留資格】就職在留資格制度、特定活動について説明、必要書類説明 【演習】在留資格変更申請書記入、準備物確認
9	就職内定先企業への提出書類について理解できる (1)	【内定書類】就職内定後の提出書類、提出方法、準備物など 【演習】内定書類記入 誓約書、内定受諾書、個人情報書類の署名捺印
10	就職内定先企業への提出書類について理解できる (2)	【内定書類】就職内定後の提出書類、提出方法、準備物など 【演習】内定書類記入 誓約書、内定受諾書、個人情報書類の署名捺印
11	入社前研修、オリエンテーションについて理解できる。(1)	【研修】研修の目的、研修内容、研修への関わり方 【演習】仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
12	入社前研修、オリエンテーションについて理解できる。(2)	【入社前研修】入社時書類、労働条件(給料、時間、休日、勤務地) 【演習】仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
13	日本企業の仕事について理解できる。(1)	【日本の企業】1日、1か月、1年間の仕事の流れ 【演習】仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
14	まとめと対策	【テスト】記述式 【テスト】回収
15	まとめと対策	【テスト返却】フィードバックと解説 【振り返り】講義の振り返り、まとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『留学生のための就職内定ワークブック』（一般社団法人留学生支援ネットワーク）
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	卒業研究		(NKT25J)
講義名 (コード)	卒業研究E		(NKT25JE)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティーコース	単位数	1
授業担当者	小林 心花	時間数	30
成績評価教員	小林 心花	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	2年間の学びをまとめた卒業発表を完成させる。パワーポイントを使いながら見ている人がわかりやすい説明とプレゼンテーションを行うことができる。
全体の内容と概要	今まで学習したことを振り返り、さらにそれについて知識を深めたり、PPTを使用したプレゼンテーションの練習も行う。
授業時間外の学修	自宅等でも発表練習をする。
履修上の注意事項等	計画的に準備をし、集大成の卒業発表にきちんと間に合わせる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	卒業発表についての流れを知る。	卒業発表準備についての流れを説明。今までに学習した授業の内容を振り返り、興味のあるテーマをあげてみる
2	自分が興味のあるテーマを探し、発表の内容について具体化できる。	今まで学んだ内容に沿った興味のあるテーマを探す
3	自分が興味のあるテーマを探し、発表の内容について具体化できる。	興味のあるテーマをもとにマインドマップを作成する
4	自分が興味のあるテーマを探し、発表の内容について具体化できる。	作成したマインドマップに沿ってアウトラインを作成する
5	内容についての情報収集ができる。	選んだテーマについての研究、課題抽出、リサーチ等を行う
6	内容についての情報収集ができる。	選んだテーマについての研究、課題抽出、リサーチ等を行い、まとめる
7	選んだテーマについて自分の言葉で説明することができる	研究、リサーチした内容をまとめ、クラスメイトに説明する
8	卒業発表のため今まで学習した知識を更に深く考察することができる	研究、リサーチした内容をまとめ、PPT作成する
9	卒業発表のため今まで学習した知識を更に深く考察することができる	研究、リサーチした内容をまとめ、PPT作成する
10	自分の言葉で表現することができる	PPTを完成させ、発表文を作成する
11	自分の言葉で表現することができる	PPTを完成させ、発表文を作成する
12	自分の言葉で表現することができる	PPT、発表文を完成させる
13	自分の言葉で表現することができる	時間を測りながら発表練習
14	期末テスト	クラス内発表、クラスメイトとFBしあう
15	まとめと解説	PPT見直し、本番前の最終リハーサル

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	日本語コミュニケーションⅣ		(NKT25N)
講義名 (コード)	日本語コミュニケーションⅣ A		(NKT25NA)
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。 また、日本人同士のスピーディーな会話を聞き取ることができる。
全体の内容と概要	N1の読解、聴解の対策をしていく。
授業時間外の学修	読解問題の新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	年間を通して必ず1度はJLPTを受験することを必須とする。 未受験者は本授業の単位取得を認めないこととする。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	実践問題が理解できる1 2 いろいろなタイプの話の聞こう2	読解：統合理解 例題2 6 聴解：指示を聞こう
2	実践問題が理解できる1 3 いろいろなタイプの話の聞こう3	読解：統合理解 練習6 0 聴解：説明を聞こう
3	実践問題が理解できる1 4 いろいろなタイプの話の聞こう4	読解：統合理解 練習6 1 聴解：テーマやいいたいことを聞こう
4	実践問題が理解できる1 5 いろいろなタイプの話の聞こう5	読解：統合理解 練習6 2 聴解：まとめ問題
5	実践問題が理解できる1 6 いろいろな語彙や表現を覚えよう1	読解：統合理解 練習6 3 聴解：よく聞くカタカナを覚えよう①
6	実践問題が理解できる1 7 いろいろな語彙や表現を覚えよう2	読解：情報検索 例題2 7 聴解：よく聞くカタカナを覚えよう②
7	実践問題が理解できる1 8 いろいろな語彙や表現を覚えよう3	読解：情報検索 例題2 8 聴解：よく聞くカタカナを覚えよう②
8	実践問題が理解できる1 9 いろいろな語彙や表現を覚えよう4	読解：情報検索 練習6 4 聴解：言い換えの言葉を覚えよう
9	実践問題が理解できる2 0 いろいろな語彙や表現を覚えよう5	読解：情報検索 練習6 5 聴解：よく聞く表現を覚えよう
10	実践問題が理解できる2 1 いろいろな語彙や表現を覚えよう6	読解：情報検索 練習6 6 聴解：まとめ問題
11	実践問題が理解できる2 2 ま まとめ問題をやってみよう1	読解：情報検索 練習6 7 聴解：総まとめ問題1
12	実践問題が理解できる2 3 ま まとめ問題をやってみよう2	読解：情報検索 練習6 8 聴解：総まとめ問題2
13	実践問題が理解できる2 4 ま まとめ問題をやってみよう3	読解：情報検索 練習6 9 聴解：総まとめ問題3
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	完全マスター読解N1 日本語総まとめN1
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	日本語資格対策Ⅳ	(NKT25P)
講義名 (コード)	日本語資格対策Ⅳ A	(NKT25PA)
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	小須田 代吉	時間数 30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間 秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	古風な表現を使った小説や論説文、やや専門的な説明を理解できるようになる
全体の内容と概要	日常生活はもちろん交渉をしたり様々なやりとりができるような文法と語彙を学ぶ
授業時間外の学修	新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	年間を通して必ず1度はJLPTを受験することを必須とする。 未受験者は本授業の単位取得を認めないこととする。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	ファンタジー小説を読み、やや古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を追って登場人物の心情が理解できる 2	文法：～かと思いきや ～んがため ～のごとく 文字語彙：文脈規定15回
2	ファンタジー小説を読み、やや古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を追って登場人物の心情が理解できる 3	文法：～にして ～だに ～～だにしなかった 文字語彙：文脈規定16回
3	ファンタジー小説を読み、やや古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を追って登場人物の心情が理解できる 4	文法：～かねる ～を限りに CHECK 文字語彙：17回
4	ファンタジー小説を読み、やや古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を追って登場人物の心情が理解できる 5	文法：まとめの問題 文字語彙：文脈規定17回
5	やや専門的な説明を聞いて、その内容や発話者の意見が理解できる1	文法：～からいる ～にかかわる ～にあつて 文字語彙：文脈規定18回
6	やや専門的な説明を聞いて、その内容や発話者の意見が理解できる2	文法：～ようによって（は） まとめの問題 文字語彙：文脈規定19回
7	古風な表現を使った論説文を読み、表現に込められた筆者の主張が理解できる1	文法：～べからず ～のみ ～がゆえ 文字語彙：文脈規定20回
8	古風な表現を使った論説文を読み、表現に込められた筆者の主張が理解できる2	文法：～と相まって ～にかたくない 文字語彙：言い換え類義1回
9	古風な表現を使った論説文を読み、表現に込められた筆者の主張が理解できる3	文法：～としてあるまじき ～ずにはすまない 文字語彙：言い換え類義2回
10	古風な表現を使った論説文を読み、表現に込められた筆者の主張が理解できる4	文法：～でなくてなんだろう ～極まりない 文字語彙：言い換え類義3回
11	古風な表現を使った論説文を読み、表現に込められた筆者の主張が理解できる5	文法：～を禁じえない ～にたる 文字語彙：言い換え類義4回
12	古風な表現を使った論説文を読み、表現に込められた筆者の主張が理解できる6	文法：～べくもない ～なくして 文字語彙：言い換え類義5回
13	古風な表現を使った論説文を読み、表現に込められた筆者の主張が理解できる7	文法：CHECK 文字語彙：言い換え類義6回
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	ドリル&ドリルN1文字語彙 TRYN1
参考文献・資料等	
備考	